

海外生活 エッセー

ロンドン事務所

自転車の街！ロンドンの交通事情

(一財)自治体国際化協会ロンドン事務所 所長補佐 阿部 祥也 (仙台市派遣)

→ 1日あたり 400万 km

今年7月、ロンドンでは2018年の1年間で、自転車での移動距離が過去最大の5%増を記録し、1日あたり400万kmをロンドン市民が自転車に乗って移動した、というニュースがありました。ロンドンの人口は約800万人ですが、2017年に発表されたロンドン交通局(TfL)の統計では毎日67万人が自転車に乗っており、2010年比で130%増、ロンドン市民は自転車が大好きです。

平日の朝8時頃には、会社に向かう自転車が道路が埋め尽くされると表現しても大げさではないかもしれません。毎日自転車で通勤する一人として、今回はロンドンの自転車事情について紹介します。



自転車で埋め尽くされる通勤路

→ 自転車は車

日本と同じく自動車は左側車線を走るイギリスですが、自転車のルールは少し異なります。

①必ず車道を走る

日本ではあまり徹底されていませんが、イギリスの自転車は必ず車道を走らなければなりません。そのため自転車専用道がない多くの道路では車や二階建てバスの真横を走ることになります。信号も自転車用信号がない限り車と同じ信号に従います。

②交差点での右折

日本では二段階右折が原則ですがイギリスでは右折車線の左側を走ります。そのため右折の際は写真のように車道の真ん中を進みます。ウインカーの代わりにハンドシグナルを使い、車になったつもりで堂々と走るのが最も安全です。



交差点で信号待ちの自転車

→ 行政の取り組み

サイクリストが増え続けている一方で、自転車に乗ることに危険を感じている市民が多いのも現状です。TfLの調査で、市民の46%が、事故の不安から自転車の利用をやめていることが判明しました。交通事故による死者・重傷者は年間約4,000人。乱暴な運転の車や急に飛び出す歩行者も多く、実際に危ない場面に遭遇することもよくあります。

子どもから高齢者まで誰もが安心して自転車に乗れる街を目指して行政も力を入れています。2018年に発表されたTfLのアクションプランでは、自転車交通へのシフトは大気汚染対策、渋滞改善による経済効果、市民の健康など数多くの恩恵をもたらすとし、向こう5年でサイクリスト数を2倍にすることを目標に、自転車インフラの整備などに年間約2億ポンドの投資をとしています。これからのロンドンがどのような自転車の街になっていくのか期待が高まります。